

## 企画名

「エヴァン・パーカー+木村まり+ギターボット(EEMNK)・トリオ」

## 企画内容

現代を代表する即興サックスの大御所、エヴァン・パーカーと、「時代の先駆を弾く現代ヴァイオリン」とニューヨーク・タイムズに評された木村まり、そして、ニューヨーク、ブルックリン生まれ、今回本邦初公開の電子音楽ロボット「ギターボット」のトリオ演奏

## 企画要旨

世界的なフリー・インプロヴィゼーションの先駆者、エヴァン・パーカーと、ニューヨーク在住の作曲家・ヴァイオリニスト・コンピューター音楽奏者の木村まりが、「超ギター」音楽ロボット、「ギターボット」と、ジャンルもメディアも全て超えたフリージャズに挑む。「3人」はインタラクティブ・コンピューター・システムを仲立ちとして、お互いの音楽を聴き合い、最も音楽的に複雑で「人間的」ともいえる即興演奏を通して、人間と機械との競演と音楽造りを実現する。

## 技術的要項

パーカーと木村からのアナログ・シグナル(ピックアップ・マイク)、ギターボットの音源(4チャンネル)がMOMN828インターフェースでミックスされ、マックG4によってインタラクティブ・音楽システム、MaxMLPによって制御される。マック、MOMN、ギターボット、MIDIインターフェースは全て持参。(注:ダイアグラムを参照)会場よりは、アンプ、2チャンネル・スピーカー、予備のエアマイク(パーカー、木村用)2本が必要。(もし可能であれば、6チャンネル以上のサブミキサー:ステージ上に設置するため。持参も可能)

## 出演者略歴

### エヴァン・パーカー(Evan Parker) 略歴

1944年、英国ブリストル生まれ。現代を代表する即興サックス奏者にして、フリー・インプロヴィゼーション(※)の先駆者の一人。その革新性はチャーリー・パーカー、ジョン・コルトレーンを凌駕すると言って過言ではない。とりわけ、サーキュラー・ブリージング(循環呼吸)とマルチフォニックス奏法を融合した超絶的なソプラノサックス・ソロでは、世界的に知られた存在である。倍音のポリフォニーを巧みに操り、たった一本のサックスから、音の粒子群が渦巻くようなサウンドスケープを現す、その演奏は比類なき魅力と驚異に満ちている。(※慣用的な表現、技術を用いない、自由な即興演奏)

14才の時に、ポール・デズモンドの音楽への興味からアルトサックスを習い始める。その2年後、コルトレーンの影響を受け、楽器をソプラノサックスに替える。

1966年、植物学を専攻する学生だった頃、ドラマーのジョン・ステーヴンスと出会い、彼の率いるスポンテナス・ミュージック・アンサンブル(SME)のメンバーとなる。当時はコルトレーンを脇に見据えた演奏だったが、翌67年の演奏には、既にフリー・インプロヴィゼーションへの萌芽

を見ることができる。

68年、SME初期の傑作Karyobinの録音に参加する。スティーヴンス、パーカー、ケニー・ホイラー、デレク・ベイリー、デイヴ・ホランドという顔ぶれだった。

同年、ペーター・ブロッツマンのMachine gunに参加するなど、欧州各地のシーンとの活発な交流を始める。

更に同年、ベイリー、ジェイミー・ミュア、そして、シュトックハウゼンの元助手、ヒュー・デイヴィスと結成したミュージック・インプロヴィゼーション・カンパニーや、翌年活動を開始する、打楽器奏者ポール・リットンとのデュオなどを通じて、音色の拡張とサウンドの多層化に焦点を当て始める。

1970年、ベイリー、トニー・オクスリーと共に英国初のインディペンデント・レーベル「インカス」を設立する。70年代、「カンパニー」において、ベイリー、ハン・ベニンク、アンソニー・ブラクストン、スティーヴ・レイシー等との実験的なコラボレーションに挑む一方、グローブ・ユニティ・オーケストラ、シュリッペンバッハ・トリオのメンバーとして活躍する。同時に、AMM、ムジカ・エレクトロニカ・ヴィヴァ、クリス・マクレガーに代表される南アフリカ出身のジャズ・ミュージシャン達などとの共演に取り組む。

80年代以降、リットンとのデュオに、ベースのバリー・ガイを加えたパーカー＝ガイ＝リットンと、70年代半ばから探求を続けて来たサクソフォン・ソロを活動の核としながら、世界各国へのツアーと、多岐に渡るプロジェクトを精力的に展開する。

1990年以降、フリー・インプロヴィゼーションとコンピューターによるサウンドの変容の一体化に取り組んでいる。昨年秋の、エレクトロアコースティック・カルテットを率いての来日は記憶に新しい。

主な共演者：

ジョン・スティーヴンス(SME)、デイヴ・ホランド、ケニー・ホイラー、デレク・ベイリー、トニー・オクスリー、ペーター・ブロッツマン、ハン・ベニンク、ジェイミー・ミュア、ヒュー・デイヴィス、ポール・リットン、バリー・ガイ、マリリン・クリスベル、アンソニー・ブラクストン、スティーヴ・レイシー、ロル・コックスヒル、フィル・ワッチスマン、ジョン・ラッセル、アレキサンダー・フォン・シュリッペンバッハ、ポール・ローヴェンス、グローブ・ユニティ・オーケストラ、AMM、ムジカ・エレクトロニカ・ヴィヴァ、ジョージ・ルイス、スティーブ・ベレスフォード、ポール・ブレイ、バール・フィリップス、セシル・テイラー、チャーリー・ワッツ、ロバート・ワイアット、ジャー・ウォーブル、サーストン・ムーア、小杉武久、マイケル・ナイマン、ギャビン・ブライヤーズ、デヴィッド・トゥープ、ジョエル・レアンドル、吉沢元治、姜泰煥、サインホ・ナムチラク etc...

## 木村まり 略歴

3歳よりピアノを、5歳よりヴァイオリンをはじめる。桐朋学園子供のための音楽教室、桐朋学園高校、同大学卒業、江藤俊哉氏に師事。1985年よりアメリカに留学、ボストン大学ジュリアード音楽院で学び、同校より博士号を取得。また、コロンビア大学で作曲と建築音響学を学び、スタンフォード大学コンピューター音楽研究所(CCRMA)より客員研究員として招かれる。

主に欧米で活動し、今までに国際電子音楽祭(ILE: ヘルシンキ、ロッテルダム)、ハンガリーでの国際バルトーク祭、「ブタペストの春」音楽祭、サンフランシスコでのOther Minds音楽祭、メキシコの国際セルバンティーノ音楽祭、国際現代音楽祭(ILCM)など、今まで、ヴァイオリンとコンピューターのための自作などを、18ヵ国以上にて招待演奏。1994年のニューヨーク・デビューリサイタルは、ニューヨーク タイムズ紙に「胴目すべきデビュー、時代の先端を弾くヴィルチュオーソ」と絶賛され、大きな注目を集めた。それ以来ニューヨークを代表する現代ヴァイオリニストとして活躍している。。

日本でも、岩城宏之氏指揮、アンサンブル金沢との共演で、リゲテイのヴァイオリン協奏曲を、サントリーサマーフェスティバルにて大野和士氏指揮、東京フィルとの共演でヒルボルクのヴァイオリン協奏曲の日本初演、また井上道義氏指揮の東京交響楽団とジョン・アダムズのヴァイオリン協奏曲を日本初演。

わが国で初めヴァイオリンの調弦を変えずにG線より1オクターブ下の音を弾く「サブハーモニクス」を披露、大きな話題をよび、作曲家の一柳慧氏より「大型ヴァイオリニストの誕生」と絶賛される。1995年には「サブハーモニクス」をアメリカ音響学会(:L:)にて招待発表、科学界でも大きな反響を呼ぶ。

今までに、アメリカ現代音楽協会(ILCM)リサイタル賞、1996年に「ヴァイオリニストとしての創造的活動に対して」中島健臓音楽賞を受賞。2000年には、日本人として初めて国際コンピューター音楽祭(ICMC)委嘱賞受賞。去る2004年1月には、音楽ロボット、「ギターボット」とのプロジェクトに対し、ニューヨーク州芸術評議会(New York State Council on the Arts)から助成金を賞与される。1995、1997、2000年度国際コンピューター音楽祭(ICMC)音楽部門審査員。早稲田大学理工学総合研究センター音響情報処理研究室研究員ニューヨーク大学で教鞭を取るほか、世界各地での音楽院にて招待講演。1998年秋より、ジュリアード音楽院にて「インターアクティブ コンピューター音楽演奏」の講師。

インプロバイザーとしても高い評価を受け、ギタリストのヘンリー・カイザーに「この銀河系外の演奏家・今までの共演者の中でも最高の演奏家」と絶賛される。今まで、ケベックの国際現代音楽祭、フランスのムジーク・アクション祭、ロンドンのLMC音楽祭など、即興演奏界のトップで活躍。ヘンリー・カイザー、ジョン・オズワルド、ジム・オルークとの即興アルバムなども発表してきた。

## LEMUR Guitarlot (ギターボット)

LEMUR (League of Electronic Musical Urban Robots: 『電子音楽都界ロボット連盟』『リーマー』と発音します)は、ニューヨークのブルックリン地区に拠点を置く、音楽ロボットを開発しているアーティストと技術者の団体です。LEMURは、自動的に演奏するロボット楽器を造ろう、という哲学のもと、音楽家で技術者である、エリック・ジンガー氏によって2000年に創設されました。LEMURのロボットは、「楽器」なのです。

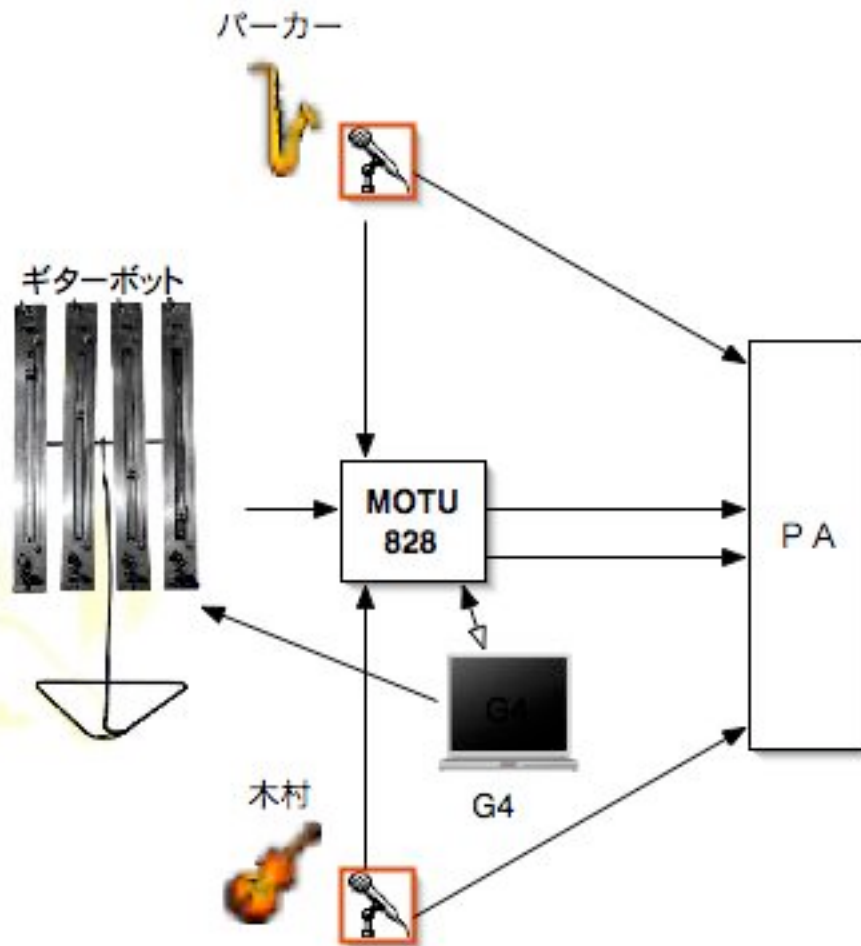
LEMURのギターボット(Guitarlot)は、電気弦楽器として人間の演奏者の複製ではなく、演奏の可能性を延長する目的で設計されています。ギターボットは、実時間(リアルタイム)

で、極端に早い速度で弾いたり、スライドしたりできるのです。

ギターボットは4本の独立したスライド・ギターから成っています。それぞれのギターに装着されているマイクロ・コントローラーが、MIDI情報を受け止め、電動機他の電子機械を制御します。

それぞれのスライドは、モーターで動く滑車とベルトが付いていて、スライディング・ブリッジを動かします。(プリンターや、スキャナーと似たメカニズムです)ピックのメカニズムは、それぞれのギターに付けられた、4つのピックが装着されたブロックが、モーターによって軸の上で回転する、というものです。4つのギターは完全に独立しており、それぞれ2オクターブの音域があり、上から下まで1/4秒で動くことができます。また、それぞれのギターに特別に設計された電磁ピックアップが装着されています。(おおよそのサイズは、60cm x 60cm x 1.4m)

ギターボットはエリック・ジンガー、ケヴィン・ラーク、デーヴィッド・ビアンチアルディによって設計されました。LEMURは、ロックフェラー財団、ニューヨーク州芸術評議会(New York State Council on the Arts)から助成金を賞与されています。詳しくは、[www.lemurbots.org](http://www.lemurbots.org)をご覧ください。



パーカー+木村+ギターボット・トリオ、セットアップ